

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 椴法華中学校 学級数 3

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標
「認め合い・学び合い・豊かに表現する」

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

- 1 取組のきっかけ
昨年度までの小中の交流から、基礎・基本の定着が低い学年が続くことがわかり、中学校としてどのように学力の向上に向けた取り組みができるのか検討を始めた。
- 2 取組の位置付け
本校では教務部の中に研修係が位置づけられているため教務を中心としながらも研究と連動させて学校全体で取り組んでいる。
- 3 取組の方法
 - 学力が下位の生徒への対応
 - ・教科担任の補充的な学習支援（昼休みを使い小学校の学習の復習をさせる）
 - 各教科共通の取り組みとして
 - ・基礎的・基本的事項を整理し簡素でわかりやすい授業の工夫
 - ・学んだことを活用する場面の設定
 - 学ぶ機会を充実させるために
 - ・朝学習の設定（学年で計画・実施）
 - ・昼休み、放課後、長期休業中の学習場所の提供（図書室を自習室として開放）
 - ・長期休業中に学習会（4日間）を設定した。午前3時間、午後3時間設定し、担当教師を割り当て、生徒の学習の支援にあたった。（延べ49名参加）
 - ・2学期から学習強調週間を設定することとした。（帰りの会から部活動までの20分間×2週間）
※学校祭終了後と定期テスト前に実施する。
 - 自主的な学びのために
 - ・各教科の勉強法を冊子にまとめ、配布した。

取組の成果と課題等

- 取組の成果
 - ・学力が下位の生徒に対し基礎的・基本的な内容の理解と定着を図るために補充的な学習支援を行っている。
 - ※ 昼休みを使った補充学習や個の実態に応じた家庭学習プリントの配布（教科担任）
（成果）→数値には現れていないが、生徒が挫折することなく継続できていることが大きな成果である。
 - ・学ぶ機会を充実させる取り組みを行っている。
 - （成果1）→放課後や昼休みの自主的学習の場として図書室が積極的に活用されている。
 - （成果2）→長期休業中の学習会に4日間でのべ87名参加した。（夏季比+38名）
 - （成果3）→学習強調週間により学習の定着度が上がった。
- 教育課程検証の方法
 - ・学期末に行っている「学習に関するアンケート」を集計し、生徒の学習状況の把握と対策の検討をしていく。
 - ・3学期に行う全学年（5教科）のCRT検査の結果を分析する予定である。